

令和2年度 第72回 卒業式 校長式辞

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。今ここに、この晴れの日を迎えることができ、教職員一同、大きな喜びを感じています。

皆さんは、人の気持ちを汲むことができる無類の優しさをもち、一つの行動が他者への慈愛に満ちていました。今、一人一人が卒業証書を受け取るその姿からも、皆さんの逞しい成長と強い意志を感じました。これまでの学業に対する努力と研鑽を、心から讃えたいと思います。

さて、およそ一年前、今なお続く混沌とした世界を、誰が想像したでしょうか。誰もが平和な未来を、穏やかな時代を夢見ていました。

『人間は考える葦である』、17世紀のフランスの哲学者パスカルの有名な言葉です。「葦」というのは、こういう字を書きますが、背の高いススキのような草です。人間は、自然のうちで最も弱い一本の葦にすぎない。しかしそれは「考える葦」であると言うのです。人間のか弱さと、思考する存在としての偉大さを言い表しています。

こちらの写真は、富士見丘小学校のシンボルともいえる「ヒマラヤ杉」です。20mを超える大木です。いかにも強そうです。どんな風が吹こうとも、びくともせず、悠然と立ちはだかっています。しかし、この「葦」は、少し風が吹いただけでもヨタヨタしてしまいます。

パスカルは、人間を、この強い「大木」ではなく、こちらの弱い「葦」だと言うのです。その通りではないでしょうか。人間は実に頼りない存在です。勉強でも運動でも、自信が持てない自分を歯がゆいと思いつつ、なかなか立て直すことができない。それが人間です。

これから皆さんが直面する「人生の風」に置き換えてみましょう。かなりの難問にぶつかってもヒマラヤ杉のような人であれば、平気で乗り越えていくかもしれません。葦のような人は、小さなことにクヨクヨしたり、悩んだり、挫けそうになるかもしれません。

人生では、想像を超えたたくさんの困難に出会います。あまりにも重い難問・課題にぶつかると、強い大木も倒れてしまう時があります。折れてしまうのです。弱い葦は尚更のことです。ヨタヨタと倒れ、人生の苦難に、土の中に埋没してしまいます。

ところが、倒れた後、弱い葦は、土の中から、少しずつ、少しずつ立ち上がり、やがて時間をかけて立ち直ることが出来ます。折れてしまわないからです。パスカルは、これを「人間の考える力」だということです。「考える葦」は、次の言葉で締めくくられています。

『私たちの尊厳は、考えるところにある。私たちはそこから立ち上がらなければならない。だから、よく考えることに努めよう。そこに道徳の原理がある』、挫けてはならないのです。

この先、社会は加速度的に変化していきます。予測不能と言われる未知の世界です。しかし、予測できない未来に対応する最善の方法が一つあります。それは、自らの手で、自分たちの手で、未来を創造することです。創造とは、創るということです。ゼロから未来を創る。新たな価値を生み出す。このことができるのは、あなたがたです。「考える葦」として、自分を信じ、友を信じ、信頼できる社会を創造してください。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。長きにわたってお子様を育て、支えてこられた皆様に対して、深く敬意を表したいと存じます。また、入学以来、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたことに、謹んでお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

卒業生のみなさんが、新しい時代を創造し、未来の守護者として長い生涯、幸運に恵まれ、悔いのない人生を送ることを祈り、私の式辞といたします。

令和3年3月25日

昭島市立富士見丘小学校長 稲垣 達也